ふくしまＮＰＯネットワークセンター通信

のっぽの

◆◆◆◆◆ 注 目 記 事 ◆◆◆◆◆

「連携復興プロジェクト会議」
プロジェクト会議役員より一言
がんばっています！我らが NPO

「連携復興プロジェクト会議」の発

まず、このたびの未曾有の惨事に遭遇された皆さまに、深く心よりお見舞い申し上げます。当法人としては、事務所において若干の損壊等がありましたものの、本来の活動業務に復帰することができ、ようやく長期化する見通しの復興に対して思いを馳せることができるようになりました。

現時点では2つの取り組みが進行しつつあります。1つは、ボランティア・マッチング・プロジェクト（通称「ふくサポネット」）です。被災者を支援する NPO・市民活動団体のボランティアに関するニーズ調査を実施し、他方でボランティア募集を仕掛けながら、双方のマッチングやコーディネートを行うものです。これは、市のボランティアの拠点となっている社会福祉協議会とも連携し、「ふくサポ」を事務局（福島市から許可をとりつけました）に展開し始めております。すでにいくつかのマッチングの実績が積み重なってきております。詳細は紙面の都合で省略しますが、詳細に興味のある方は「ふくサポ」へお問い合わせください。

もう1つは、長引く復興をにらみ、地域の NPO・市民活動団体が情報を一元化・共有化し、互いに得意分野を持ち寄って連携しながら効果的に取り組んでいく必要性、さらには NPO・市民活動の目線で復興計画に意見を反映していく必要性から取り組むプロジェクトです。これは当センターがリーダーシップを発揮し、「ふくしま NPO・市民活動連携復興プロジェクト会議（通称ふくふくプロジェクト）」を4月27日に立ち上げました。県北地方で活躍する NPO・市民活動団体に呼びかけ、NPO・市民活動団体の集合体として復興支援活動に取り組む体制を整えました。折しも、この 4 月 24 日に全国レベルで被災地を支援する NPO 全国プロジェクトも設立されましたので、中央の団体との連携も図り、被災地の問題を適切に把握しながら、復興支援活動を展開して参りたいと思います。2 つのプロジェクトの関係で言えば、後者のプロジェクトが軌道に乗っていけば、前者のプロジェクトは後者のそれに引き継がれていくことになります。

この度の大災害にあたり、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

4月27日⇓
設立総会のようす

ふくしま NPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議の設立

ふくしま NPO ネットワークセンター常務理事　牧田　実

去る 4 月 27 日、ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議（略称“ふくふく”）の設立総会が開催されました。

“ふくふく”は、福島県北地域をおもな活動拠点とするNPO・市民活動団体が情報を共有し、連携しながら、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故による被災への支援と復興に取り組むことを目的としています。①情報の共有化による団体間の連携の強化、②各レベルの行政諸機関との協働による事業展開と復興ヴィジョン・計画の提言、③東日本大震災復興NPO支援・全国プロジェクトなど全国組織との連携および浜通りを中心とする被災地の広がりに対応した広域的展開という 3 点を活動の枠組みとしています。

具体的には、①情報センターの設置により各団体への中間支援を担うことと、②専門部会による支援・復興活動の実践が中心になります。情報センターは、ニーズ/シーズ情報の一元的集約、全国組織・行政諸機関・支援団体などとの連絡調整と活動団体への情報提供・マッチング、人的・知的資源の提供、物資・資金の仲介など中間支援機能を担います。これは私どもふくしま NPO ネットワークセンターが担当することになります。専門部会としては、緊急対応的な「被災者支援部会」と中長期的な対応となる「復興計画部会」が設けられ、そのもとに分科会として、前者には「物資供給」「子供のケア」「高齢者福祉」「衛生環境」、後者には「新エネルギー・産業」「雇用創出」「コミュニティ再生・行政との協働」が置かれました。各専門部会・分科会にはそれぞれまとめ役の団体に張りついていただきました。なお事務局はふくサポに置かれ、当センターの責任において運営されることになります。議長には星野珙二（当センター）、副議長には清水修二（同）、大竹隆（シャローム）、事務局長には早川哲郎（当センター）の各氏が就任しました。

“ふくふく”がその機能を十分発揮できるように、当センターも全力を注いでいきたいと思います。また、その運営と活動がNPO・市民活動団体の成長ひいては県北地域の市民セクターのステップアップにつながることを期待したいと思います。

がんばっています！我らが NPO～被災時‘‘迅速な活動’’の紹介～

●NPO法人ふくしま飛行協会

『ふくしまスカイパーク』

3 月 11 日の震災当初、3 月 31 日まで閉場期間としていたが、国土交通省航空局と協議し、震災の翌日 3 月 12 日より有視界飛行可能時間帯（日の出から日の入り）を使用可能にした。

ふくしまスカイパークでは次のヘリコプターの離着陸がおこなわれている。

①災害支援物資中継　②原発対応人員輸送

③報道機関各社　④航空写真撮影

⑤福島県入り緊急人員輸送　など。

また、このほかに原発上空撮影無人ラジコン飛行機の操作ミッション受け入れなどもおこなわれ、被災地の空の玄関口として惜しみない協力活動をおこなっている。

●NPO法人まごころサービス福島センター

『まごころケアホーム高湯の里』

震災、原発などにより避難所となったあづま総合体育館に、まごころサービス福島センターでは次の情報提供を張り紙によりおこなった。

①家と食事（15～16人可）

②高齢者のデイサービス

③宿泊可能なショートステイ④出前のデイサービス

この情報に 1 組のご夫婦から反応があった。夫は車いすを必要とする要介護者で、お二人ともかぜを引いていた。さっそく受け入れてあたたかい食事と手厚い介護をおこなった。その後、3 月 31 日にはご家族に元気な姿で引き取られていった。

また、これまでに高湯の里では食事等を含めた支援はのべ 100 名の利用者を数えている。

ふくしま飛行協会の斎藤理事長とまごころサービスの須田理事長が共通しておっしゃっていたことは「スタッフがほんとうによく頑張ってくれている」ということ。これから長期的な取り組みも必要になる支援活動、“がんばりすぎない、でも、あきらめない”という姿勢で、ともに持続的な活動に取り組もう！

ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議

役員より一言ご挨拶

議長　星野珙二

やや大げさにいえば、NPO・市民活動団体の力量が問われる局面をむかえている、ということでしょうか。

もちろん、国、県、市町村という行政セクターや社協などの行政関連機関の担うべき役割は絶大なものがありますが、網羅的で一律的な公平性を原則とする行政サービスには限界もみられます。NPO・市民活動団体は現場の問題に寄り添って、時には絡み合う問題を解きほぐしながら、解決の手を差しのべようとします。このとき、テーマ別に活動する団体同士がしっかり情報を共有し、連携・協力して事に当れればより適切な解決が期待できると思います。

そうした緊急の問題解決に取り組むことに加え、今回の「連携復興プロジェクト会議」では、NPO・市民活動の目線からの新しい社会ビジョンについても議論を深め、機会を捉えてはその内容を提言していきたいと考えています。

副議長　大竹隆

私は、「福祉」とは、「私たちみんなが幸せになるために、命を守りあっている行為」であると思っています。しかし、現実の社会の中では、たくさんの命の危険と不幸をもたらす可能性の中に置かれています。

災害時の緊急性に求められるものは、「今、何をなすべきか」、それは、今救える命は、今助けなければ。それには、被災者の現状と目線からの支援、そして、それに見合った方法の選択が求められます。しかし、個々の立場で出来ることの限界もあります。時として、私たちはその立場も入れ替わります。支援者の立場から被災者へ。

福島では、避難者への支援と原発災害の被災者と言う二面性の中で「ふくしまNPO市民活動団体連携復興プロジェクト会議」が設立されました。３．１１を境に、それまでの当たり前と思われていた日常が崩れ去ってしまいました。今こそ、みんなが幸せになれる復興計画に向けて、みんなが力を出し合い行動して行くことです。福祉の原点に立ち返り、今できることから行動していきたいと思います。

副議長　清水　修二

「想定外」は禁句ですが「未曾有」であることは間違いのない状況です。当部門では福島県あるいは県北地区の復興ということではなく、主として浜通りの復興ビジョンを描くことを目指すことになります。原発震災という、人類にとって未経験の災厄をどう乗り越えるか。非常に大きなテーマです。復興構想についてはこれからさまざまな人や団体がいろんな提案を繰り出してくると思いますが、市民活動らしい、地に足をつけた議論を提起できれば幸いです。

事務局長　早川　哲郎

プロジェクト会議センターの運営に関わることになりました。時間の経過とともに被災者支援、災害復旧・復興にNPOが果たす役割も変化しており、マネジメント能力がますます試されることになります。中間支援、後方支援としての機能はこれまでのネットワークセンターの延長線上にあるものですので、これまでの資源を活かしていくことが肝要だと考えています。限りある体制で多様なニーズにどこまで応えられるか、課題も多くあると思いますが、走りながら考え造っていくことになると思いますので、ご協力よろしくお願いします。

ふくサポ新チーフのご挨拶

福島市市民活動サポートセンターチーフ　内山　愛美

今年度より業務チーフを務めさせていただくことになりました。まだまだいたらないところがあるかと思いますが、一生懸命頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

ふくサポも昨年５月にチェンバおおまちに移転して１年となりました。

平成２２年度は来館者数が 4267 人、相談・問合せ数が 349 件となり、新しくサービスに加わった会議室等の利用も１９６団体、２３８１人のご利用がありました。今後とも、皆様に気持ちよくご利用いただけますよう、スタッフ一同より一層の努力をしてまいりますので、ぜひご利用くださいませ。

東日本大震災に寄せて～ネットワークセンター事務局から～

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当ネットワークセンター事務局も３月 11 日の震災と４月に入ってからの余震で、ガラスや食器が割れる、棚や食器棚が傾く、書類が散乱するなどの被害がありました。しかし幸いけが人も無く、片付けも無事終了し、通常の業務に戻っております。福島市から委託を受けて運営しております、福島市市民活動サポートセンターおよびふくしま情報ステーションでもケガ人もなく、わずかな被害はありましたが、震災後の３月中旬および後半から通常通りの業務を再開いたしております。ご心配いただいた皆様ありがとうございました。復興に向け、これからもよろしくお願いいたします。

第４回のっぽ・アカデミー（第６１回 NPO 研究会）中止となりました

３月１６日（水）に開催予定でおりました、第４回のっぽ・アカデミー（「新しい公共支援事業について」講師：福島県文化振興課　上野台直之氏）は３月１１日に発生しました震災のため中止となりました。なお、震災の影響のため、今後この内容で開催する予定はございません。次回の、のっぽ・アカデミーにご期待ください。

お見舞いのご訪問をいただいた方々

全国まちの駅連絡協議会（特定非営利活動法人地域交流センター）
橋本正法様　山下匡紀様

NPO 事業サポートセンター　田中尚輝様　池本修悟様

市民活動センター神戸　実吉威様　ありがとうございました

編集後記

まだまだ余震がある度落ち着きません。ただ春らしく暖かくなり気持ちも前向きになっていくような気がします。

◎福島市より受託して運営しています。

■福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041　福島市大町 4-15　チェンバおおまち３階

ＴＥＬ024-526-4533　FAX024-526-4560

■ふくしま情報ステーション

〒960-8053　福島市三河南町 1-20　コラッセふくしま１階

ＴＥＬ024-525-4020　FAX024-525-4027

発行：ふくしまＮＰＯネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29　佐平ビル８階

TEL 024(528)1211　FAX 024(528)1218

E-mail center@f-npo.jp

URL http://www.f-npo.jp/